

高校教員となつて



静岡県立吉原工業高等学校
村松 聖俊 (平24卒)

大学在学中、私は東京都での保健体育教師の採用を目指していました。教授の方々から、「静岡は新卒採用がほとんどないが、東京であれば採用される可能性が高い」とお聞きしたからです。郷土の静岡で教員として働く夢は、東京で経験を積んでからと考えていました。しかし、三年生になる頃には、やはり静岡で働きたいという思いが強くなり、教育実習でその思いは決意に変わりました。最初の試験は、自信はありま



したが、不合格となり、その後も大学の友人達が東京都で合格していく中、落ち続けてしまいました。焦りもありましたが、周囲の方々の協力もあり、五度目でようやく合格することができました。合格に至ったのは、その年の自分自身の試験に対する本気度が違ったからだと思います。

卒業後、静岡市体育協会で水泳の指導員を行っていました。年度途中から静岡中央高校定時制に常勤講師として約四年間勤めました。そこで、本当に多くの経験をしました。生徒と何度も衝突し、その中で生徒の多様性を認め、教師としての幅を広げられました。また、部活動では、サッカー部を全国優勝に導くことができました。高い目標に向かって一緒に努力してくれた当時の選手たちには、本当に感謝しています。

平成二十八年より、新規採用職員として吉原工業高校へ赴任しました。人生初の実業高校で、最初はなかなか慣れる事ができませんでした。体育の授業でも異なる部分があり、大きな衝撃を受けました。学校により、授業の形が異なることを実感しました。本校では卒業後すぐに就職する生徒が七割程います。そのため、「挨拶」「礼儀」「時間」等当たり前のことを確実に行わせ、それとともにリーダーシップを発揮できるように学校を挙げて取り組んでいます。



卒業後、静岡市体育協会で水泳の指導員を行っていました。年度途中から静岡中央高校定時制に常勤講師として約四年間勤めました。そこで、本当に多くの経験をしました。生徒と何度も衝突し、その中で生徒の多様性を認め、教師としての幅を広げられました。また、部活動では、サッカー部を全国優勝に導くことができました。高い目標に向かって一緒に努力してくれた当時の選手たちには、本当に感謝しています。

これから二年目を迎えるに当たり、自分の「色」を出して行きたいです。今年度は副担任・サッカー部の副顧問と、サブに回る事が多かったです。来年度どのような状況であれ、今年度以上に生徒と関わり、生徒の将来のために精一杯努力したいと思います。目の前の生徒を大切に、教師として責任を持って生徒の将来を支えて行けるよう挑戦していきます。

特別支援学校の教員になつて



掛川特別支援学校
鎌田 祥吾 (平15卒)

「教師になりたい」と思い始めたのは中学生のときでした。当時バスケットボール部に所属していて、思うような活躍ができ悩んでいました。そんなとき、親身になって話を聞いてくれた人がいました。それは副顧問の先生でした。私と同じ目線に立って話を聞いてくれました。その後、高校に進学してからもバスケットボールを続けました。そこで出会った先生からは、バスケットボールの専門的な知識、技能を学びました。存在感があり、もっと学びたいと思える先生でした。そんな中高生時代

